ホッパー大学開く

九時就寝まで生きた学習

「ホッパー大学」が去る十日開設され、二泊三日の文字どうり寝食をともにした仲間たちの学習が開始されている。情勢を正しくとらえ、反撃の闘いを強力に推進するためには学習こそ不可欠の要素である。すでに第一回の卒業生は巣立ち、いま第二回が開始されているが、ここで学んだ理論が血肉となつて労仂者魂がつくられることこそ、意義あるホッパー大学の成果である。

闘いの中で学習するホッパー大学が開設した

活発な学習討議

去る四日ひらかれた中央委員会では「当面の情勢とこんごの闘いかた」を長時間にわたつて論議し、諸活動が決定されたが、その中のひとつとして情勢を正しくとらえ反撃の闘いを強力にすすめるために学習活動の推進が決定された。決定後ただちに実行にうつされ、十日「ホッパー大学」が開催された。受講期間は二泊三日を一回として、毎回の定員を三十名（宮浦、四山六、三川十、本所四、港務三）、当面第五回まで予定されている。

全国の労働者に忘れられない感銘と労働者の誇りをきざみつけたホッパー下で「ホッパー・ハウス」を教室とするホッパー大会は十日午前九時に開催した。

灰原書記長、炭労渡辺中執の開校挨拶ののち「今次闘争の評価」について田中慎一郎九大講師から学習がはじめられた約二時間……。このあと中食ののち「労働者の抵抗の歴史」が午後一時から四時まで中山伊雄九大講師からミッチリ講義を受けた。

午後四時から六時まで入浴、夕食つづいて夜の部は、しのびこむ虫の声をききながら六時なら九時まで西井竜生八幡大助教授から「労働法と労働運動」の講義、九時就寝というスケジュール。

翌日から毎日七時起床、ラジオ体操で一日が切つてやとされ、九時就寝までギッシリつまつたスケジュールの中で学習に励んだが、第一回の受講者二十六名はつぎの闘争の指導者をめざした自覚のうえにたつて熱心に講義に耳をかたむけたり、活気あふれる討議をかさねた。

二日目、三日目の主な学習内容をひろつてみると「組織問題（王子京ノ上闘争報告）」…渡辺炭労中執、倉田京ノ上労組組合長。「今後の闘い構えについて（討議中心）」…灰原、渡辺、河野氏出席。「外国の労働者の状態」…永田院長＝米の山病院院長。「資本主義社会における労働者の位置」「学習の手引き」…九産労事務局長戸木田嘉久氏などである。

いま第一回二十六名はすでに修了し、第二回の四十一名が学習に討議に頑張つている。

窓口は閑散

反対運動高まる

来年四月から実施するという国民年金の加入受付けが十月一日からはじまつた。

この悪年金に対してフタを開けてみると政府や地方役場の懸命なPRにもかかわらず、どこの窓口も閑散だという。東京、大阪では二カ月間に、二十数カ所の決起大会がひらかれ、十月十九日からさらに全国集会を行なうことになつている。

このためこんごの難航は必至であり、総選挙と結んだ反対運動の発展によつて延期、改正をかちとれる可能性も大きくなつている。

遠足に大喜び

保母さんと延命公園へ

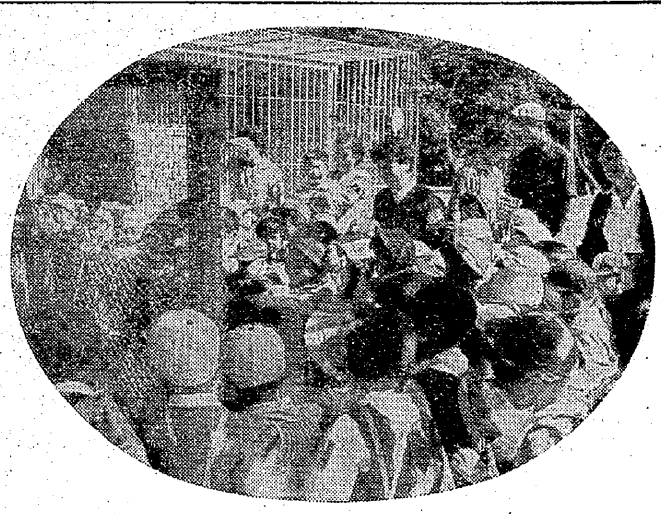
連日の秋日和で空は青くすみ渡つている。例年だとよい子たちは保育園でうちそろつて楽しい遠足があるときだ。

三池のよい子たちは会社から保育園さえうばわれ、不幸な仕打ちをうけているが、それでも明日の世代を担う子供たちのために限りない情熱と愛情をそそいで「青空保育園」をひらいて頑張つている保母さんの手で、楽しい毎日を過ごしている。

楽しい秋晴れの一日を利用してよい子たちの楽しい遠足が実現した去る十日から十四日までの五日間地域を五つに分けて、毎日貸切バス一台で保母さんたちと延命公園行きだ。

延命公園では動物園へも行き、熊や猿、猿などを見て大はしゃぎ、楽しい弁当ひらきをして、のびのびと一日をすごした。

激しい闘争のあけくれで子供たちに何もしてやれない父母も、この計画にはとても感謝していた。

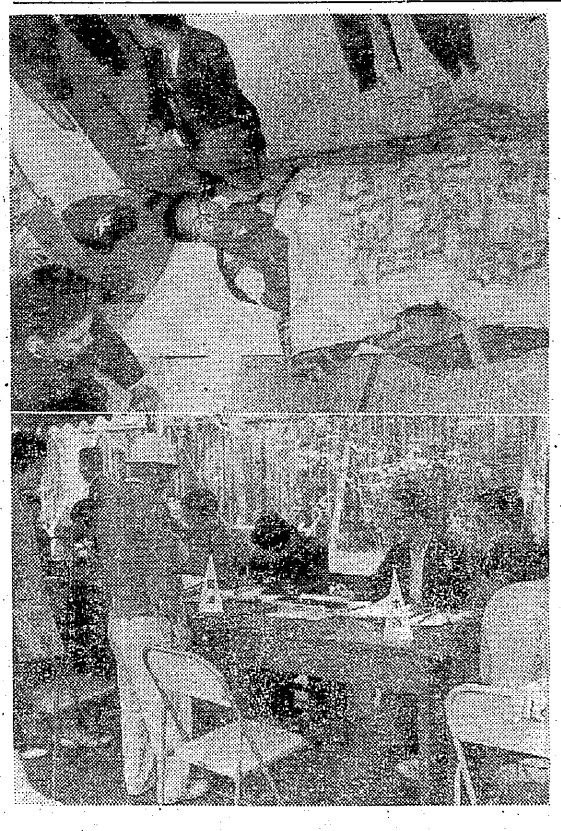


そのとき（用意の中から）

宮浦　中村一徹

澄んだ色の迷彩を持つ秋天の
ダイヤの太陽のわらう
日比谷公会堂に
血を誘るビー玉の百の眼
がぶつかり合つていた
昼過ぎ
狂熱のジャズのヤジ
たびたび壇上でビラを撒く
ビー玉の眼による
むじなのインテリの
主催による
陽動の策略
が
ドスの様に
浅沼委員長の肉を
えぐつた
一九六〇年十月十二日
午後三時十分
屍からビー玉が生まれるか？
民衆の眼をビー玉に
民主の眼を
働くものの眼をビー玉に
ライスカレーの香気は
ラムネのあわをつくる
屍のあとからは
ビー玉を射る眼が生まれる
幾百の　幾千の
幾万の　幾千万の
ビー玉に抗う眼が生まれる
ビー玉には
液体を抜いた空瓶の
うつろを音が
最もふさわしいのだ

（完）



悪い奴ほどよく眠る

世の中は逆立ちだ

今年の春二月、宇部の炭鉱社宅で殺人事件があつた。それは、わずか二千円のお金を「貸せ、かさん」のもつれから、若者が金のムシンをハネつけられて、その祖母を刺したもので〝あすの食にも事欠く貧しい炭鉱労働者〟の生活苦をあらわした悲しい事件であつた警察はこの若者を逮捕し、送検は彼を釈した。

そのころ、日本の炭鉱資本家たちは、企業合理化の名のもとに労働者の首を切つていた。炭鉱資本家たちは、すでにこの一年間に三万人以上の首切りをやり、さらにこれから十一万人におよぶ首切りをやろうとしている。いまの日本で労働者が首を切られ、失業することは、その家族もろとも生活の道をうばわれ、路頭に迷い餓死することを意味する。筑豊の〝暗い谷間〟の実状はこのことを裏書きしている。これはあきらかに殺人であり、しかも数十万におよぶ大量殺人である。

空腹に耐えかねた労働者がわずか二千円のもつれで犯した罪は厳罰に処罰される一方では、合法的（？）に大量殺人をやる資本家はぬくぬくと生きていく。まさに悪い奴ほどよく眠られる世の中である。日本の社会は逆立ちしているのである。

責任は第二組合にある

この逆立ちしている社会を正しく直し、労働者の生活を守つて三鉱労組は今日まで、三井鉱山の〝首切り攻撃〟と闘つてきた。一、二〇〇名の指名解雇に対決して、全国の働く仲間の共感と支援、共闘につつまれて闘いすすみ、絶対的に有利な態勢をきずきあげ、闘いをもりあげたのである。

こうした労働者の強烈な団結に支えられた三鉱労組の闘いに、おそれをなした会社はあらゆる卑劣な手段をもつて組合弾圧を企み、強行してきた。満川を先頭とする一部の首切り分子や分裂屋をそそのかし、おだてて三月十七日には第二組合をつくらせ、さらに三鉱連五山にも働きかけて、炭労の統一闘争に動揺を与えたし、三月二十八、九日には暴力団を雇つて「久保さん殺し」をやり、文字どおりの謀略と暴力をもつて組合に攻撃を加えてきたのである。大牟田の街に暴力団を横行させ、世論の非難を浴びて、会社は警察と裁判所の争議介入を誘い、こんどは国家権力をもつて組合ぶつつぶしを企んだのである。会社の私兵化した警察官が一方的に三鉱労組の行動に弾圧を加えたことは私たちの記憶に生々しい。

こうして四月一日を起点として炭労全山の統一ストライキをもつて三井鉱山に決定的な痛撃を加えんとする時、三鉱連の戦列離脱、動揺から戦術転換を余儀なくされた。それいらい組合は文字通り苦闘をつづけてきた。生産のカギをにぎるボツバーも二万のピケ隊によつて守り抜きながら、最悪の環境あつせん案をつくらしめ、ついには炭労大会の決定によつて「条件つきの事態収拾」をせざるを得ず、なお会社の高姿勢にいたらしめている。

正しい闘いは明るい

確信をもつ三池のなかま

鉱炭労オルグ　岡屋孝治

合員の労働能力が劣悪であり、働く意欲が低いことを知り、現状では、とうてい生産能率を上げることは不可能であることを知りぬいている会社は、最近、職制、第二組合を使つて、自宅訪問、通信、電話呼出しなどと、あの手この手で誘惑、脅迫し三鉱労組の組織切り崩しにやつきになつている。これはあきらかに会社の焦りのあらわれである。十一月に予定されている三井鉱山株主総会が迫るにつれ、切崩し策動は激しくなることが予想される。第二組合幹部はもちろん会社に協力して切崩し策動をつづけているが、彼らがどんなにウマイことをいおうと、もともと会社のお声がかりでつくられ、飼育される第二組合が、正しく生きる労働者の要求をきき、生活と職場の安定をつくつてくれるとは信じられない。

会社となれあいで、闘うことのできる第二組合ではあるまい。闘わざる労働組合は眠れるブタである。三池労働者の正しい要求をそらし、会社のしいたレールを走り〝眠りつづけようとする第二組合の幹部は悪い奴〟である。

いま三鉱労組の組合員、主婦会員はみんな、いままで正しく闘つてきたことを誇りにしているし、これからも会社、第二組合の切崩し策動に乗ぜられることなく、三鉱労組の団結をくずさず、一人の脱落者もださないことが、会社、第二組合に打撃を与えることであることを確信して、正しく生きる労働者の誇りと自信をもつて、闘い続けよう。

その要因が第二組合の発生にあり、三鉱連の動揺にあることはまちがいない。三池の労働者がいまナメている混乱と苦しみを起さしたのは、会社の策動にのつて組合を割つて脱落していつた第二組合の幹部である。

労働者にとつて〝死ね〟といちにひとしい首切りをやる会社に協力して三井鉱山に決定的な痛撃を加えんとする第二組合の幹部は大量殺人の手助けをしているのだ、三池労働者の今日の苦しい闘いに追いこんだ責任をのがれることはできない。私たちは第二組合幹部の罪の死に価する責任をあくまでも追及する。

誇りと自信をもつて闘おう

生産再開を目前にして、第二組

【写真上】去る十日夜三川支部通万地域分会の竹本分会長と奥さんに第二組合の松永正行と、そのイトコ山下春雄がおそいかかり竹本分会長に重傷を負わせた。凶悪惨忍な第二組合の暴力だ。

【写真下】三井銀行で九日から退職金の支払いが始まつた。ハチ巻も固く金を受取る組合員の胸の内は怒りに燃えていた。

〝夜なべ妻〟

宮浦支部　高むく龍生

老眼となりし夜なべを妻励む
襟足にしみこむ日焼夜なべ妻
団結のハチ巻締めて妻夜なべ
夜なべする妻も一と口玉子酒
寝とぼけて起きて来る子に夜なべ頒く

〝月見酒〟

ヤツケーをすつぽり被り風邪心地
ピケ小屋の炉にハダラ焼く秋の暮
員住酔づけでピケの月見酒
ピケ小屋の風ろ当番や虫時雨
ピケ小屋に寝ころび聴下親しめる